

科学研究費補助金（学術創成研究費）研究進捗評価

課題番号	17GS0101	研究期間	平成17年度～平成21年度
研究課題名	高等教育グランドデザイン策定のための基礎的調査分析		
研究代表者名 (所属・職)	金子 元久（東京大学・大学院教育学研究科・教授）		

【平成20年度 研究進捗評価結果】

該当欄		評価基準
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

（評価意見）

日本の高等教育のグランドデザイン構築のための実証的基盤の確立を目的とした本研究課題の意義は大きく、研究計画も妥当である。とりわけ、行財政改革に起因する高等教育再編が間近に迫ろうとする今、本研究課題の現代的意義は切実な重要性を持つに至っている。

(1)高校生、大学生対象の基礎調査、(2)国際比較、(3)政策課題とのリンクという3本柱からなる研究計画は、その一部を除いて計画通りに実現されており、当初目標に向けて順調に計画が進行しているものと評価する。現段階までにいくつかの政策的インプリケーションが引き出されているが、それらも有益である。

今後は以下の点に留意し、計画通り成果を生み出すようこれまで以上の努力を期待する。まず、社会人調査（卒業生調査）の遂行に遅延が見られるため、確実な実行に尽力されたい。次に、社会人調査（卒業生調査）を確保されたい。また、追跡調査の実施により、既に膨大なデータが蓄積され、かつ今後いっそう増加が見込まれることから、データ蒐集に追われて分析が追いつかない事態が生じないよう、特段の注意が必要である。さらに、若手研究者が多い研究組織の特徴を活かし、若手研究者がより業績をあげられるような研究体制、条件を整備してほしい。最後に、今回の調査計画の中には、研究者集団ではなく政策担当者が定期的に行うことで、政策策定に利用すべきものが含まれているため、最終的な研究成果には、高等教育政策の立案に不可欠な基礎的調査体系の提案をも含めることを要望する。

【平成23年度 検証結果】

検証結果	本研究の一つの目的は、日本の高等教育の課題を明らかにすることであり、そのための基礎的調査分析は順調に行われたと評価する。このようなデータベースは大変貴重であり、今後有効に活用されることが期待される。
A	一方、研究課題名にあるとおり、本研究は高等教育グランドデザイン策定を目指したものであり、これに関してより踏み込んだ考察が望まれ、今後の研究の進展を待たなければならない。また、社会人調査（卒業生調査）や国際比較の研究結果についても同様である。